授業科目	＊成人急性期看護学実習					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	3～4	開講時期	後期・前期
担当教員	髙橋　甲枝、財津　倫子						
授業概要	急性期病院にて看護師経験を有し、消化器外科、整形外科、呼吸器外科、心臓外科等にて臨地実習の指導経験をもとに実習指導を行います。 実習目的 1. 急性期・回復期にある患者の特性を理解し、術前から術後の過程において、患者およびその家族に応じた看護を実践できる能力 を養う。 2. 急性期の看護の実践を通して、生命の危機的状況とその後の回復過程を知り、早期回復および障害に応じた生活の自立に向けて援助できる能力を養う。						
授業形態	実習			授業方法	実習		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	1．急性期・回復期にある患者を総合的に理解することができる（DP2-1）。 2．急性期・回復期にある患者・家族と援助的人間関係を築くことができる（DP5-1、5-2）。 3．急性期・回復期にある患者の看護上の問題を明らかにし、看護過程の展開を行うことができる（DP2-1、5-2）。 4．受持ち以外の患者に対して、生活の援助技術及び診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護実践能力を高めることができる（DP5-2）。 5．医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる（DP3-2）。 6．継続看護の必要性及びそのために活用できる社会資源について理解することができる（DP3-2）。 7．急性期・回復期にある患者および家族への援助を通して、自己の看護観を深めることができる（DP3-1、3-2、4-3）。 8．看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる（DP4-1、4-2）。						
理想的レベル	・急性期・回復期にある患者を総合的に理解し、患者・家族と援助的人間関係を築くことができる。形態機能を踏まえて、急性期・回復期の疾病を十分に理解したうえで、エビデンスを踏まえたアセスメントのもと、患者の看護上の問題を明らかにし、個別性のある看護過程の展開を行うことができる。 ・受持ち以外の患者に対して、生活の援助技術及び診療に伴う援助技術を実践あるいは見学することで、看護実践能力を高めることができる。 ・手術を受ける患者を取り巻く状況や看護の役割について理解するとともに、病棟・手術室・ICU での看護の継続性が理解できる。 ・医療チームにおける看護の役割や機能を理解し、チームの一員としての望ましい協働のあり方について考えることができる。 ・継続看護の必要性およびそのために活用できる社会資源について理解することができる。 ・急性期・回復期の実習を通して、自己の看護観を深め、自己の課題を明確にできる。 ・看護専門職としての責務を認識し、倫理的配慮に基づいた行動ができる。						

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		

小テスト		
レポート	46%	実習記録で評価します
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	54%	看護実践と実習態度で評価します

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31322J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
受け持ち患者の状態にあわせて、日々の行動計画を立案し、予習・復習を行う 情報収集、アセスメント、看護計画を立案し、個別性のある看護を探求する	0

授業計画	
第 1 回	成人急性期看護学実習は、3 年次後期～4 年次前期までの間に、2 週間指定された病院で実習を行う。 【第 1 週】 事前学習返却と指導、学内オリエンテーション、手術室オリエンテーション 病棟オリエンテーション 病棟スタッフへの挨拶、受持ち患者への挨拶 行動計画発表、看護技術の見学・実施 計画立案発表、学生カンファレンス 【第 2 週】 行動計画発表、情報収集、計画立案発表 看護技術の見学・実施・評価、学生カンファレンス、サマリー作成、まとめ発表 学内実習（実習内容の振り返りと個人面接）実習 詳細については、看護学実習要項を参照すること。
テキスト	看護診断ハンドブック 成人急性期看護方法論、救急クリティカルケア看護学、看護形態機能学、疾病総論・各論、臨床検査などで使用したテキストや資料 基礎看護技術、看護過程の展開、看護倫理など、患者・家族に対して実施する看護に必要な知識・技術・態度について振り返り、観察および清潔援助技術については確実に実施できるよう自主的に練習を行い実習に臨みましょう。特に、成人看護学演習で行った技術演習「手術直後観察と援助」、「清拭」、「術後の離床」は動画および演習資料を確認しておきましょう。
参考図書・教材／データベース・	成人急性期看護方法論や成人看護学演習、看護形態機能学、疾病総論・各論、臨床検査などで使用したテキストや資料を参考にすること

雑誌等の紹介	
課題に対するフィードバックの方法	日々の実習中およびカンファレンスでコメントを行います。 臨地実習「まとめ」の発表時に総評を行います。 2 週目学内実習時に個人面談を行い、コメントを行います。
学生へのメッセージ・コメント	成人急性期看護学実習は看護展開が速いことから、看護形態機能学、疾病学総論・各論、成人急性期看護方法論の事前学習を十分に行って実習に臨んで欲しいと思います。 実習開始前の週に患者情報を提供します。実習に必要な事前学習を行い、実習に臨みましょう。 実習に必要な看護技術を練習し、習得しておきましょう。 実習中は健康管理に十分に気をつけるようにしましょう。 「看護学実習要項」の成人急性期看護学実習の実習目的と実習目標 8 項目について、学生の自己評価、臨床指導者による評価、看護教員の評価により総合的に評価します。